

割印押印先情報

①種里城 (たねさとじょう)

[1] 光信公の館
青森県鱒ヶ沢町大字種里町字大柳90
0173-79-2535 ※11-翌年4月は冬季休館・対応休止
[2] 鱒ヶ沢町中央公民館
青森県鱒ヶ沢町本町209-2
0173-72-2859 ※11-翌年4月は対応休止

②浪岡城 (なみおかじょう)

青森市中世の館
青森県青森市浪岡字岡田43 0172-62-1020

③野辺地城 (のへじょう)

野辺地町立歴史民俗資料館
青森県野辺地町字野辺地1-3 0175-64-9494

④七戸城 (しちのへじょう)

七戸町観光交流センター
青森県七戸町字荒熊内207 0176-51-6100

⑤根城 (ねじょう)

八戸市博物館
青森県八戸市大字根城字東構35-1 0178-44-8111

⑥聖寿寺館 (しょうじゅじたて)

史跡聖寿寺館跡案内所
青森県南部町大字小向字正寿寺81-2 0178-23-4711

⑦三戸城 (さんのへじょう)

三戸町立歴史民俗資料館
青森県三戸町大字梅内字城ノ下34-29
0179-22-2739 ※12-翌年3月は冬季休館・対応休止

⑧九戸城 (くのへじょう)

二戸市埋蔵文化財センター
岩手県二戸市福岡字八幡下11-1
0195-23-8020

⑨姉帯城 (あねたいじょう)

御所野縄文博物館
岩手県一戸町岩館字御所野2 0195-32-2652

⑩久慈城 (くじじょう)

道の駅くじ「やませ土風館」
岩手県久慈市中町二丁目5番6
0194-66-9200(久慈市観光物産協会)

⑪盛岡城 (もりおかじょう)

もりおか歴史文化館
岩手県盛岡市内丸1-50 019-681-2100

⑫高水寺城 (こうすいじじょう)

⑬片寄城 (かたよせじょう)

紫波町情報交流館(オガールプラザ内)
岩手県紫波町紫波中央駅前2-3-3 019-672-2918

⑭鍋倉城 (なべくらじょう)

遠野市立博物館
岩手県遠野市東館町3-9 0198-62-2340

⑮土沢城 (つちざわじょう)

⑯花巻城 (はなまきじょう)

花巻市博物館
岩手県花巻市高松26-8-1 0198-32-1030

⑰金澤城 (かねざわじょう)

後三年合戦金沢資料館
秋田県横手市金沢中野字根小屋102-4 0182-37-3510

割印押印の心得

- 一、割印押印は無料です。
- 二、割印押印を希望される方は販売先スタッフに対象の御城印を提示し、割印押印を希望する旨をお申し出ください。
- 三、割印はご来場者様に押印していただきます。押印ミスによる返金・返品は行いません。
- 四、割印のインクカラーは販売先ごとに異なります。

事務局

南部御城印プロジェクト事務局 (八戸市博物館)
青森県八戸市大字根城字東構35-1 0178-44-8111

各種情報

最新情報は「南部お城めぐりフェイスブック」
<https://www.facebook.com/NanbuGojoinProject/>
旅のお供に「南部お城めぐりガイド」
<https://hcm-hit.github.io/nanbu-castles-tours/>
リーフレットはこちらでダウンロード「八戸市博物館HP」
<https://hachinohe-city-museum.jp/goods/>



なんぶのワリイン



「なんぶのワライン」とは？

「なんぶのワライン」とは、南部御城印プロジェクトの御城印に割印を押すことができるという企画です。

割印の組み合わせは16城館16組で、内容はそれぞれのお城の関係を示しています。

「三日月の丸くなるまで南部領」と謳われた広大な南部領は一朝一夕にできたものではありません。南部氏一族の武士は同盟と対立、そして隣郡への侵攻を繰り返し、南部領を築きました。

みなさんも割印が紹介する16のストーリーを知り、より深く南部の歴史をお楽しみください。



南部氏一族の歴史とお城

14世紀頃、甲斐から糠部(現在の青森県東部から岩手県北部)に入部した南部氏は、郡中に分散し、それぞれの居城を構えた(④・⑤・⑥)。これら南部氏一族は分家や家臣、近隣の国衆と一揆を結び、広く北東北を治めた(②・③・⑧・⑩・⑰)。

15世紀中頃以降、隣郡へ侵攻を進めた南部氏一族を中心とする一揆は、安東氏や斯波氏(⑫・⑬)を攻略し、領土を拡げた。しかし、天正年間後期になると一揆の中でも三戸南方(⑦・⑤・豊臣軍)と九戸方(⑧・③・④・⑨・⑩)の対立が顕在化し、両者は強く争った。三戸南部家は豊臣軍の加勢を得て、九戸方に勝利し(天正19年(1591)・九戸一揆)、名実ともに大名になった。

大名となった三戸南部家は、南に拡がった領地(盛岡藩)に合わせるように本拠を⑦三戸城から、⑧九戸城(=福岡城)・⑩盛岡城へ移した。中世城館の多くは廃城したが、一部は支城や代官所に転用され、近世も利用された(③・④・⑦・⑧・⑫・⑭・⑮・⑯)。

割印1 ①種里城 × ⑩久慈城『御出立光信公御入部』

延徳3年(1491)、南部光信は軍勢を率いて久慈を出立、種里城に入り勢力を拡大した。光信を初代とする大浦氏は後に津軽藩を興す津軽為信を世に出し、光信は「津軽藩始祖」と崇められている。

割印2 ①種里城 × ⑰金澤城『金澤御先祖津軽』

津軽藩の官撰史書「津軽一統志」附巻によると、種里城主南部光信を始祖とする津軽家の御先祖は、出羽仙北金澤に所領を有していた金澤右京亮だとされている。金澤右京亮の子孫は、下久慈を経て津軽に移ったという。

割印3 ②浪岡城 × ⑦三戸城『南部政信浪岡城派遣』

戦国末期、津軽地方一帯は旧来勢力の南部氏と新興勢力の津軽氏によって、その支配権を巡る熾烈な争いが繰り返されていた。当主南部信直は、津軽の重要拠点「浪岡城」へ弟の政信を郡代として派遣した。

割印4 ③野辺地城 × ④七戸城『南部領北方守護』

中世七戸南部家の本城である七戸城は、支城である野辺地城とともに、南部領内の北の要衝と位置付けられていた。七戸城は周辺地域の統括、野辺地城は西接する津軽領との境界警備を担う重要な存在だった。

割印5 ④七戸城 × ⑤根城『七戸応永己亥八戸』

14世紀後半、根城南道家当主南部政光は家督を甥に譲り、自らは七戸城に隠居した。政光の後裔は七戸南部家として分立、以降根城南道家と七戸南部家は「ぬかのふなんふ一族」を支える有力氏族として共存共栄した。

割印6 ⑤根城 × ⑭鍋倉城『八戸弥六郎直義』

根城南道家(遠野南部家)当主は代々、八戸弥六郎を名乗り、藩の筆頭家老を務めた。直義は元和6年(1620)分家新田家から養子に入り家督を継ぐ。寛永4年(1627)藩主の命で八戸から遠野に村替し、藩境警護にあたりながら遠野の礎を築く。

割印7 ⑥聖寿寺館 × ⑦三戸城『本三戸炎上新三戸』

本三戸(聖寿寺館)を拠点とした三戸南部家は、巧みな戦略により北奥羽で最大勢力を築いた。天文8年(1539)更なる領土拡大と本三戸の炎上を契機に、中世糠部最大の山城「三戸城」へ拠点を移し、覇権獲得へと乗り出した。

割印8 ⑥聖寿寺館 × ⑰金澤城『寛正南部小野寺弓矢』

寛正6年(1645)、三戸南部家は幕府からの要請に応じ、京に馬を送ろうとするが、小野寺氏との確執で出羽(仙北金澤周辺)の通路が閉ざされ、馬の進上滞る。幕府は事態収拾のために大宝寺出羽守八道中警固を命じた。

割印9 ⑦三戸城 × ⑧九戸城『九戸一揆』

豊臣秀吉に帰属した南部信直は南部内七郡の領主として認められる。一方で九戸政実を筆頭に在地領主らは独立維持を貫き、両者の対立は激化。天正19年(1591)、九戸氏と三戸家の存続をかけた戦いが奥州糠部の地で始まった。

割印10 ⑧九戸城 × ⑨姉帯城『九戸方天正十九籠城』

天正19年(1591)に起こった九戸一揆の際、姉帯城に籠る九戸方の姉帯氏は、浅野長吉ら再仕置軍に攻められ、わずか1日で落城した。その後、戦いの場は九戸城籠城戦へと移行する。

割印11 ⑩久慈城 × ⑰金澤城『金澤右京亮南部』

金澤右京亮家光は出羽仙北金澤に所領を有していたが、侍の一揆により討たれ、幼少の嫡男(南部右京亮家信)は家光の家臣により南部の地に届けられ、後に家信は本領であった下久慈を知行したと伝えられている。

割印12 ⑧九戸城 × ⑩盛岡城『福岡城』

天正19年(1591)に起こった奥羽再仕置の最後の戦場となった九戸城。落城後、九戸政実を降した南部信直が入城し「福岡城」と改称した。寛永10年(1633)に信直の孫の重直が、盛岡城に入るまで三戸南部家の拠点となった。

割印13 ⑩盛岡城 × ⑫高水寺城『郡山城』

天正16年(1588)、高水寺城主斯波詮直は南部信直に敗北。高水寺城は郡山城と改称された。盛岡城築城に際しては南部利直の居城となったが寛文7年(1667)破却され、古材は盛岡城本丸に用いられたともいわれる。

割印14 ⑩盛岡城 × ⑯花巻城『盛岡城北上川花巻城』

盛岡、花巻にとって北上川の存在は城下の防衛的・経済的にも重要な河川であった。一方では脅威ともなり、江戸時代に北上川の氾濫による洪水で両城下町ともに甚大な被害を受けており、改修工事を行っている。

割印15 ⑭鍋倉城 × ⑯花巻城『盛岡藩領南端守護』

鍋倉城と花巻城は、広大な盛岡藩領において、最も警戒すべき伊達仙台藩との境で、最前線地ともいえる重要な役割を担っていた。この重要拠点に盛岡藩は一族の根城南道家直義と藩主子息の政直を配置した。

割印16 ⑮土沢城 × ⑯花巻城『対伊達睥睨之城』

慶長17年(1612)、花巻城と鍋倉城の中間地点に土沢城が置かれたことで、盛岡藩南端は岩崎城から大槌城に至るまで、仙台藩境の守備が一層強固なものになった。土沢城3代目城主江利長房は花巻城代も務めた。

三日月の丸くなるまで南部領